

## 大豆新品種「ニシムスメ」について

異儀田和典・中澤芳側・羽鹿牧太 (九州農業試験場)

Kazunori IGITA, Yosinori NAKAZAWA, and Makita HAJIKA :  
A New Soybean Cultivar "Nisimusume"

大豆新品種「ニシムスメ」は1990年度から山口県において奨励品種に採用され、普及に移された。また、この品種は今後西日本を中心に広く普及が見込まれている。ここに本品種の育成経過と特性の概要を報告し普及の参考にした。本品種の育成に関し、御高配をいただいた関係県農業試験研究機関各位に深く謝意を表する。

### 1. 来歴及び育成経過

この品種は1974年に長野県農業試験場桔梗ヶ原分場(現：長野県中信農業試験場、大豆育種指定試験地)において、多収、大粒、良質を目標として「東山25号」を母に「東山95号」(後のタマホマレ)を父として交配された。F<sub>3</sub>世代まで同場で育成後、1978年に九州農業試験場が譲り受け、F<sub>4</sub>世代以降は暖地向き、早生、良質、多収を目標に育成を続けた。F<sub>4</sub>世代の個体選抜、F<sub>5</sub>世代以降の系統選抜を経て、F<sub>7</sub>世代で「九系8号」として適応性検定試験を行い、F<sub>9</sub>世代に「九州92号」の地方番号を付し、以後関係県に配布して適否を検討してきた。1990年6月に「だいち農林93号」として登録、「ニシムスメ」と命名された。

### 2. 特性の概要

1) 形態的特性 胚軸色と花色は紫、毛茸の色は白、毛茸の形態は直、毛茸の多少は中である。小葉の形は円葉である。主莖長は短く、主莖節数と分枝数は少ない。有限伸育型で熟莢色は褐色である。粒の大きさは中の大粒に属し、「タマホマレ」より大きい。粒の形は球、種皮色は黄色、粒の光沢は弱い。子葉と臍の色は黄色である。外観上の品質は上である。

2) 生態的特性 開花期は「アキシロメ」よりやや早く、「タマホマレ」とほぼ同じである。成熟期は両品種とほぼ同じで、中国・四国・近畿地方では中生種に、九州の秋大豆としては早生種に該当する。生態型は中間型である。裂莢の難易は「アキシロメ」の易に対して「フクユタカ」並みの中である。倒伏抵抗性は「アキヨシ」より優れ、「アキシロメ」並みである。ウィルス病抵抗性は「アキシロメ」並みの中、紫斑病抵抗性は「アキシロメ」より弱く「タマホマレ」と同程度の中である。サイズストセンチウ及びサイズネコブセンチウ抵抗性はともに弱である。子実収量は6月中旬播及び7月中旬播とも「アキシロメ」と同程度である。「タマホマレ」と比較すると6月中旬播ではやや低いが、7月中旬播ではやや高い。蛋白質含量は「タマホマレ」より高く「アキシロメ」と同程度である。脂肪含量は「タマホマレ」より低く「アキシロメ」と同程度である。豆乳中の固形物抽出率では「フクユタカ」や「タマホマレ」には及ばないが「アキシロメ」と同程度である。豆腐の硬さは「タマホ

マレ」や「アキシロメ」より硬く、型くずれしない。豆腐の色は白くて美しい。豆腐の食味も「タマホマレ」より優れている。

### 3. 奨励品種採用理由

山口県では転換畑に適し収量も多い「タマホマレ」を奨励してきたが、蛋白質含量が低く、豆腐に加工した場合に軟らかくて型くずれしやすい欠点があった。そのため実需者の評価が低くなり、最近では販売が困難になっている。「ニシムスメ」は形態的及び生態的特性が「タマホマレ」によく似ており、蛋白質含量は高く豆腐にした場合も型くずれせず食味も良好であるので「タマホマレ」に代えて奨励する。

### 4. 栽培上の注意

莖長が短く分枝数も少ないので栽種本数を確保する。

第1表 ニシムスメの特性概要

品種名		ニシムスメ		
		ニシムスメ	アキシロメ	タマホマレ
形質				
早 晩 性		中生の晩	中生の晩	中生の晩
開 花 期 (月日)		7. 23	7. 28	7. 23
成 熟 期 (月日)		10. 15	10. 16	10. 15
主 莖 長 (cm)		51	56	50
主 莖 節 数		13.1	15.0	14.1
分 枝 数		3.9	6.1	4.6
生育中の 障害程度	倒 伏	無	無	無
	ウィルス	無	無	無
障 害 粒 の 程 度	紫 斑	微	微	微
	褐 斑	無	無	無
	裂 皮	無	微	微
子 実 重 (Kg/a)		26.9	26.4	27.9
子 実 重 対 比 (%)		102	100	106
百 粒 重 (g)		28.7	25.5	26.2
品 質		上上	上下	上下
粗 蛋 白 含 有 率 (%)		40.3	38.6	37.7
粗 脂 肪 含 有 率 (%)		19.2	20.7	20.9
豆 腐 の 硬 さ (g/cm <sup>2</sup> )		61.6	54.3	44.5

注) 育成地における1987~'89年の6月中旬播栽培による。